

# 「総合的な学習の時間」の事例

個 別 の 人 権 課 題			外 国 人		
校 種	高等学校	3 つ の 側 面	知 識 的 側 面	◎	
対 象 学 年 等	第1学年		価 値 的 ・ 態 度 的 側 面	○	
教 科 等	総合的な学習の時間		技 能 的 側 面	◎	
単 元 名	ディベート「日本の移民の受け入れについて」				

## 1 目 標

学校の「総合的な学習の時間」の目標は、「自ら課題を見つけ、学び、考え、判断することを通して問題を解決する資質や能力を養うとともに、学び方やものの考え方を身に付け、主体的、創造的、協働的に問題解決や探究活動に取り組む態度を養い、自己の在り方生き方を考える。」です。

## 2 概 要

本実践は、1学年の「総合的な学習の時間」に大学生と連携して行われたディベートである。総合的な学習の時間の年間計画は右の通りで、主に3つの活動を通して上記の目標を達成する計画としています。

時期	主な学習活動
4～9月	新聞切抜き作品
9～10月	読書会
10～1月	ディベート（本事例）
2月	まとめ

## 3 ディベートの指導計画

- (1) ディベートのガイダンス、論題検討、大学生による模擬ディベート観察（6時間）
- (2) 役割分担、根拠資料準備、クラス内リハーサル（5時間）
- (3) 学年ディベート大会、振り返り（4時間）

## 4 人権教育との関わり

ディベートの実践を通して、上記1に示された目標を達成する中で「異なる他者の理解と共存に必要な力」を育むことができ、それが人権教育で育てたい資質・能力と重なりと考えられます。

模擬ディベートの判定を全員が一度体験することで、公平に判断することの重要性に気付くことができます。また、役割分担と根拠資料準備の段階では、自分の思いや考えとは異なる立場に立ち、その立論を支える根拠となる資料を探したり分析したりすることで、異なる主張を建設的に理解し、受容することの難しさや大切さに気付くことができます。

さらに、「移民」の問題を考えることは、人種・民族・宗教・文化等の違いから生じる「外国人」の人権課題を考えることにもつながるものです。

3つの側面については、次のような内容を育成できると考えられます。

知 識 的 側 面	人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識 自由、責任、正義、平等、尊厳、権利、義務、相互依存性、連帯性等の概念への理解
価 値 的 ・ 態 度 的 側 面	社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度
技 能 的 側 面	能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能 対立的問題を非暴力的で、双方にとってプラスとなるように解決する技能 複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能

## 5 実際の様子と生徒の感想



ディベートの手法やディベートを行う意義について大学生から説明を受けた。ディベートの手順や事前の準備、必要となる力などについてメモをとっています。

大学生によるディベートの説明と実演



模擬ディベート時の判定の様子



大学生との振り返りの様子

大学生による模擬ディベートに判定者として参加し、内容と判定について振り返りました。対立軸の整理を行い、立論と反駁ができているか検討し、中立的な立場で判定できたか振り返っています。



在校生によるディベートの様子

判定者の立場に立った時、どのような力が重要になるのかを常に考えながら、全員がディベートに参加するという姿勢を一貫して大切にしました。判定者は、私見を差し挟まず、展開されている立論・反駁だけを判断材料として、論理性だけを公平・公正に判断することの困難さを体験しました。

### ■■■ 3つの側面との関わりが見られる生徒の感想（抜粋）より ■■■

#### 【知識的側面】

- ・ 論題に関わる「移民」についての資料を収集し読む中で、移民の人々の人権課題について知ることができた。
- ・ 世界中のさまざまな地域・国が抱えている移民の問題の複雑さについて知ることができた。

#### 【技能的側面】

- ・ 相手の意見を傾聴する力と自分の意見を簡潔かつ的確に表現する力が身に付いた。
- ・ 自らの考えを冷静かつ批判的に吟味する力が身に付いた。
- ・ 様々な条件や状況を考慮しながら、異なる意見や価値観をもつ人と議論する力の大切さに気付くことができた。

#### 【価値的・態度的側面】

- ・ 自分の考えと相対する主張に立ち、その根拠までさかのぼりながらその主張を支える価値観を考えることの重要性がわかった。他者理解や異文化理解とは何かについて今後も考え、それらを尊重していきたい。